

男性だけで “楽しく” “パワフルに” 地域活動



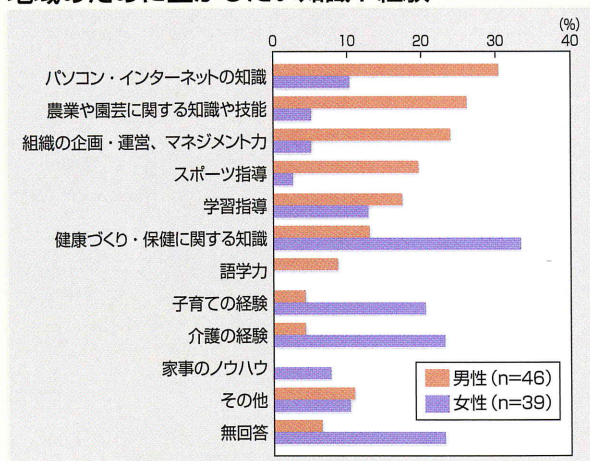
淡路 睦

(株)ちばぎん総合研究所
受託調査部主任研究員

県内自治体の市民大学を受講する60歳以上の男女の「地域活動に生かしたい知識・経験」を比較すると、女性は健康・福祉関係の項目に集中しているのに対し、男性は、パソコン・インターネットから農業、組織運営、スポーツまで多岐にわたっていることがわかる。

このように多様な知識や経験を持つ退職後の男性を「地域の財産」ととらえ、彼らの持つ知識や経験を地域に役立てられるよう、「地域デビュー講座」等と称した学習の場を設ける自治体が増えている。しかし、地域活動の多くは、これまで自営業や主婦など地域で働いている人々に支えられてきた経緯があり、こうした輪に、地域の外で働いてきた男性はなかなか入り込めない面があった。学習活動に参加しても、その成果を地域活動に生かす機会を得ないまま学習だけを繰り返す男性が多いのは、このようなことが一因だった

地域のために生かしたい知識や経験



(出所) 12年2月、千葉県高齢者福祉課「千葉県生涯大学校と地域活動に関する調査」

と考えられる。

私が住んでいる四街道市には、男性だけの役員でパワフルな活動を行っている自治会がある。「つくし座自治会」だ。世帯数は703世帯、約1,860人が居住しており、自治会加入率は99%と高い(2012年5月現在)。

特に力を入れているのが、05年から続く「防災訓練」で、昨年度は650人が参加した大規模な訓練だ。活動の一環として「要援護者リストの作成・更新」と「食糧備蓄(全世帯の3分の1の2日分)」は訓練開始時から取り組み、防災計画全体は定期的に行われる「防災会議」において見直しされている。東日本大震災では、この一連の取組成果がおおいに発揮され、要援護者リストに基づき役員が手分けをして対象者を訪問し、安否確認を行うとともに、地震発生後1時間で「対策本部」を自治会館に立ち上げ、お困りの方を自治会館に案内するなど、具体的活動につながった。

中心メンバーは65～75歳の元サラリーマン。ゼネコン、商社、航空会社などで活躍していた、まさに「元企業戦士」の集まりだ。ソフトボールやゴルフを通して知り合った仲間を、飲み会で自治会活動に誘い入れるという手法は「男性社会」ならではであり、自

治会というよりは会社組織を思い起こさせる。

この事例から、退職後の男性を地域に取り込むには、サラリーマン時代の枠組みを取り入れることがとても有効であると考えられる。

①スポーツ・趣味を通して仲間づくり

現在65歳前後の男性の多くはゴルフが趣味だ。スポーツを通して地域の輪に溶け込むことができる。

②飲み会でコミュニケーション

男性は女性と違っておしゃべりでのコミュニケーションが難しい。男性のコミュニケーションの場は昔も今も酒の席だ。

③企業の経験を生かした組織運営

女性には敬遠されがちだが、〇〇部長、〇〇隊長などの肩書は役割分担に有効だ。会議も定期的を実施、規定や会議録も作成しPDCAを回すなど、組織のマネジメントも男性の得意分野だ。

つくし座自治会の相川会長は、「男だけで酒を飲みながら語り合う原始的民主主義から、活動を推進する力がわき、男社会がうまく機能した。今後は、『移送サービス』等の収益を生む活動をビジネスに拡大させて活動資金を確保したい」と意欲的だ。

男性の豊富な知識や経験を生かした活動は、無償の地域貢献活動から、組織力を生かしたビジネスへと発展する可能性がある。少しの収益は活動の継続性とやりがいを高めるだろう。元企業戦士の得意とする“稼ぐ”^{かせ}ことにも挑戦してほしい。